槙寄山

毎日新聞旅行　　21 日

奥多摩の三頭山から派生する笹尾根の真ん中にある山が槙寄山（1188m）である。奥多摩の山なんてほとんど登りつくしたつもりでいたが、記録を見ると笹尾根は初めてである。登り始めはいきなり急登であったが稜線に出てしまえば傾斜も楽になった。槙寄山までの標高差 700m の登りが済めば、あとはだらだらとした降り中心の楽な道である。天気も最高であり本当にのどかな里山といえる。今の俺にとっては最も好ましい山である。距離的には長かったので、この日の万歩計は 34316 歩。このあたりの地名には面白い読み方をするものが多い。笛吹はうずしきと読む。浅間嶺はせんげん嶺である。人里と書いてへんぼりと読む。小ゆずりなんていう、木ヘンに岡と書く辞書にも載っていない字の地名もある。

参加者はジジイ 5 名にババア 14 名であり、いつもの配合だ。知った顔はない。この日のジジイ達はあんまり好ましいとは言えない奴らだった。話しながら歩いているその内容がマイナスイメージなものばかりなのである。「山小屋で韓国人の客が冷蔵庫のビールを勝手に飲んでしまった」“あいつらは小屋代を払えば何をやってもいいのでと思っているらしい”と言った話もあった。彼らが隊列を組んで歩かないことも批判的に言っていた。世界中の山をたくさん歩いている私から見ると、隊列を組んで歩くのが好きなのは日本人とドイツ系の人たちだけであり彼らの方が普通だ。日本人がツアーで行く外国の山には韓国人もよく見かける。彼らは大体おとなしくマナーの悪い奴なんていない。日本人だと思って“こんにちわ”と声をかけるとぶすっとしている奴がいる。これは韓国人かなと思って“あなんせよ”と言い直すと、にっこりして“こんにちは”と返事されたことがあった。韓国には高い山がなく（一番高くても済州島の漢拏山で 1950m である）岩山もあるが規模が小さいので、距離的に近い日本の北アルプス

に良く来る。室堂あたりには日本語に加えてハングルも載せた指導表もある。（最近は英語に中国語も加わった）立山で車いすの人を皆でサポートして登らせている韓国語でしゃべっていたグループを見たことがあり感激したこともある。確かに韓国の人というのは日本人を悪者にしておけば国民がまとまるという変な人たちだという感覚は私にもある。しかし前記のようなことも経験しているので、韓国人のすべてを否定しようとは思わない。

ツアーリーダーは朝妻さん、30 台までを若者とするならばそのカテゴリーに入っているかもしれないケッコウ美人である。9 月からツアーリーダーをやっているというので、私は初めて会った。サブはベテランの奥谷さんだ。普通はリーダーが先頭を歩いてサブがラストであるが、今回は逆であった。まだリーダー見習いといったところか。

中学校クラス会

1960 年に卒業した中学校のクラス会をやった。担任であった上谷先生のお宅に伺ってこの 6・7 年やっている。5 月に先生は 93 歳で亡くなったのであるが、奥さんを主役にして 7 人集まった。優等生であった小川肇君がまとめ役をやってくれている。やはり成績の良かった奴は、学校時代が懐かしいようである。当時はクラスで 53 人いて、そのクラスが 11 組あった。まだ団塊の世代と言われる前のことである。このうち連絡が取れたのは 17 名で、7 名はすでに亡くなっている。まあ我々も後期高齢者になったわけであるからこれも仕方ないかもしれない。

小学校の学芸会

NHK　プロフェショナル　10 月 26 日　放映より

子供時代の話といえば、NHK がプロフェッショナルという番組で吉永小百合の過去を流していた。実は私は吉永小百合とは同級生なのである。この番組の中で吉永小百合が学芸会のことを話していた。この学芸会には私も出ていた。ということは、私は吉永小百合と共演したということになる。彼女は主役のウサギさんで、私はセリフのない狸さん（写真：中段左端）であり、このころは可愛い顔していた。このころの吉永小百合と私との距離は地球と月くらいであったが、今は地球と冥王星くらいに大きくなってしまった。